

令和4年度 第1回「地域連携担当者」等新任研修 開催報告

- 趣旨** 生涯学習・社会教育の専門的知識の習得ならびにコーディネート能力の向上を図るなど、社会に開かれた教育課程を実現する上で学校と地域を結ぶ指導的役割を担う教職員の資質向上を図る。
- 主催** 滋賀県教育委員会
- 対象** 市町立小学校・中学校・義務教育学校、県立中学校・高等学校・特別支援学校において、「地域連携担当者」等の校務分掌に新たに位置付けられた教職員、またはそれに準ずる者
- 日時** 令和4年5月20日（金） 13:30～16:00
- 会場** 滋賀県庁東館7階大会議室（大津市京町四丁目1番1号）
オンライン（Zoom）併用による開催
- 内容**
 - 開講式
 - 研修の趣旨・説明
 - 「しが学校支援センター」の紹介
 - 講演「社会に開かれた教育課程の実現に向けた地域連携担当者の役割」
講師 村田 和子 氏（和歌山大学 紀伊半島価値共創基幹 価値共創オフィス 教授）
- 参加者数** 126名（来場25名、オンライン101名）



8 講演の概要

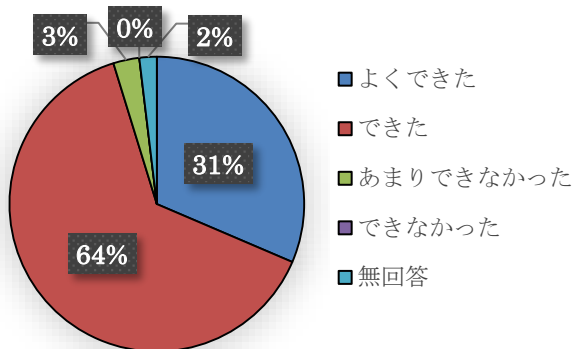
「社会に開かれた教育課程」がなぜ求められるのか、コミュニケーション不全の時代・少子化の進行・人口減少による学校統廃合などの社会的背景があることを丁寧に説明いただいた。そして、ヒトが育ち、安心して群れることができる関係となるために、学校・地域・家庭のつながりが大切であることをご教示いただいた。学校と地域の連携について、豊富な資料をもとに具体例を多く取り上げていただき、「先生方が感じている連携の問題点」と「地域が感じている連携の問題点」についても整理してお示しいただいた。最後に、地域連携担当者に期待することとして、「自らが地域を知り、児童・生徒とともに楽しむことを忘れない、自己教育者であってほしい。」と締めくくられ、参加者にとって各学校での取組のヒントを得られる場となった。

9 参加者のアンケートより

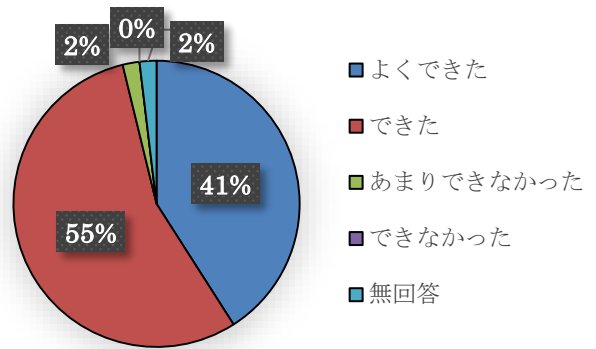
- ・少子化、高齢化、あるいは貧困の問題をはじめ様々な社会問題が山積する中、子どもたちも厳しい状況にあります。そのような状況の中、地域の力を有効に活用していくことの大切さを学びました。
- ・今の子育ての現状から、なぜ地域連携が必要なのかということがよく理解できた。実践事例も大変参考になった。学校が地域に助けを求めただけでなく、学校も地域に何ができるか考えていきたい。
- ・具体的な取組をたくさん紹介してくださったのでわかりやすかった。あまり無理をしないでできることから取り組んでみたらよいと励ましていただいた。

- ・課題があるから助けてと言える学校・家庭・社会の関係こそが連携であるという話が印象的であった。
- ・最も心に残ったのは、「学校は問題を抱え込んで開示しない」という言葉だ。学校が子どもたちに対する責任を背負いすぎるあまり、問題があっても開示せず学校のみで解決しようとし、地域には学校の良い部分のみを見せようとしてしまう。もっと地域を信じ、地域に助けを求め、地域と一緒に子どもを育てていける学校でありたいと感じた。
- ・「5分でもいいので、必要な無駄話を。」という言葉が印象的でした。多忙な毎日を過ごしている教職員ですが、少しでも話をして、困っていることを共有することで、居心地のよい学校、職員室になればと感じました。

(1) 「地域連携担当者」等の役割について理解を深めることができましたか。



(2) 「しが学校支援センター」について理解を深めることができましたか。



(3) 村田先生の御講演はいかがでしたか。

